

深草西浦町の都市特性に関する分析調査

服部圭郎
吉田瑞希

The Analysis of Urban Characteristics of Fukakusa Nishiura-cho

要 旨

京都市伏見区に立地する龍谷大学の南一帯に深草西浦町は広がる。そこは、龍谷大学と同様に戦前まで第十六師団の演習場であったところで、戦後になり、開発が進んだ、京都市では珍しく住宅地としての歴史が新しい地区である。そのような特異な歴史を有している深草西浦町の現在の特性を探るために、そこで生活する住民の特性、さらには土地利用の分析を本調査では行った。

深草西浦町の人口の特徴としては、外国人が多く居住していることが挙げられる。その数は2020年時点で697人。外国人比率は10.8%と、全国の外国人比率が2.2%であることから非常に多いことがわかる。外国人比率は人口が減少傾向にあることに反して、コロナ禍に至るまでは増加傾向にあった。また、大学生が西浦町住民の1.5割を占めていることから学生の多く住む街であることがわかった。5歳階級別の人口のデータの15~19歳と20~24歳が多く、また住宅の有無も賃貸の数も多い。

深草西浦町の土地利用の特徴としては、飲食店については全体として深草学区（南側）に立地する割合が高い事が判明した。中でも居酒屋を中心として酒類を提供する様な業種が多く立地している。中華料理については砂川学区に多く立地する事が明らかとなった。特化係数を見ると町丁目別には相違が見られ、町丁目別に特徴があることが明らかとなった。

キーワード

深草西浦町, 人口, 外国人, 土地利用

Abstract

Fukakusa Nishiuracho neighborhood, which lies in the southern district of Ryukoku University's Fukakusa Campus, has developed since the termination of the World War II. This is a very unique situation for the neighborhood that is in the jurisdiction of Kyoto City, one of the most historical cities in Japan. This uniqueness of the neighborhood bestows interesting characteristics to the area. The research intends to clarify its intriguing characteristics from two perspectives: its population and its land use. Its characteristics of population were probed through statistical data. Its characteristics of land use were probed through actual field study.

The research found that there are many foreigners living in this area. Its ratio was 10.8%, which is much higher than the national average of 2.2%. The research also found that university students consist of 15% of its population.

The land use survey found that there are 72 restaurants in the neighborhood. More than 19% of the restaurants are bars, followed by 15% of Chinese restaurants. There are also 88 parking space in the neighborhood, especially along Shidan-Kaido Street. The research also found that there are locational differences within the neighborhood in terms of its land use.

Keywords

Fukakusa-Nisshiura cho, Population, Foreigners, Land-use

I 調査の背景と目的

京都市伏見区に立地する龍谷大学の南一帯に西浦町は広がる。そこは、龍谷大学と同様に戦前まで第十六師団の演習場であったところで、戦後になり、開発が進んだ、京都市では珍しく住宅地としての歴史が新しい地区である。そのような特異な歴史を有している深草西浦町の現在の特性を探るために、そこで生活する住民の特性、さらには土地利用の分析を行うことが本調査の目的である。本調査は、今後の西浦研究を進めていくうえでの基本なデータとして寄与することを目的とする。

調査方法としては、人口に関しては統計調査、文献調査、そして土地利用調査に関しては、龍谷大学政策学部服部圭郎ゼミナールの学生達による現地踏査に基づく。調査期間は2022年6月から2023年7月とする。

II 深草西浦町の概要

1 地理

深草西浦町は京都市の南部、伏見区に位置している。伏見区は旧伏見市を中心として複数の市町村が基となっている（京都市，2018 a）。深草西浦町はこのうち深草町に含まれていた地域であり、伏見区の中では最北部に位置する。鴨川と稲荷山の間の低地に広がり、周囲を師団街道（東側）、国道24号線（竹田街道）（西側）、府道中山稲荷線（201号）（北側）に囲まれ、南側には名神高速道路、西側には第二京阪高速道路が通る。周辺には京都南 IC が深草西浦町の南西に位置している。京阪本線の龍谷大前深草駅（北東）、藤森駅（南東）の他、京都市営地下鉄烏丸線のくいな橋駅（北西）、竹田駅（南西）が立地している。竹田駅には近鉄京都線も乗り入れており、京阪本線と並行して東側にはJR 稲荷駅を有する JR 奈良線が通っている。バス路線も複数存在し、多種の交通手段に容易にアクセスが可能な地域であり、交通の便が良い。

町内は平坦で、区画整理を経て中心に公園

（JCL 西浦中公園）が配置され、これを起点として東西南北にそれぞれ一本ずつの中央通が延びる。深草西浦町はスーパーブロックのように大通りにて囲まれているが、この大通りと直線上で結ぶものは師団街道から一本、西に入った通りのみであり、これは通過交通がこの深草西浦町に入らないための都市計画的な配慮であることが考察される。中央通も中心部ではそれぞれが直交して公園を四角形に囲みながら接続している。

深草西浦町は1丁目から8丁目で構成される。これらは西浦町北中央通で深草西浦町1丁目、2丁目と3丁目、4丁目が隔てられ、西浦町南中央通で西浦町5丁目、6丁目と7丁目、8丁目が隔てられている。同様に、西浦町東中央通で深草西浦町3丁目、4丁目と5丁目、6丁目が隔てられ、西浦町西中央通で深草西浦町1丁目、2丁目と7丁目8丁目が隔てられている。行政区分としては1丁目から4丁目が砂川学区、5丁目から8丁目が深草学区となっている。

深草西浦の町名は平安時代にはすでに見られ、現在の深草町西浦という名前は1949年に京都府知事告知として定まったものである。

2 歴史

深草西浦町一体は弥生時代から水田が存在し、深草遺跡としてその痕跡が確認された（伊藤，1995）。5丁目には「深草弥生遺跡」という石碑が建てられている。明治に入ると1908年に陸軍の十六師団が深草周辺に駐屯することとなり、後の深草西浦町一体は陸軍京都練兵場として整備された（京都市，2018 b）。その後1945年まで練兵場として利用された。

戦後、練兵場は他の軍施設とともに進駐軍¹⁾の占領下にあったが間もなく返還され、京都市は当時の困窮した食糧事情に対処する緊急事業として、1946年に練兵場に農場を設けた（会報「にしうら」，1994）。また、GHQ 指令による自作農創設の農地改革に基づき、開拓地として払い下げることとなったことにより昭和1948年に練兵場全域は農地に改造された。1949年より市農地残置、上賀茂ゴルフ場代換地、山科地区、深草地区にそれぞれ分配し、「深草西浦町」の

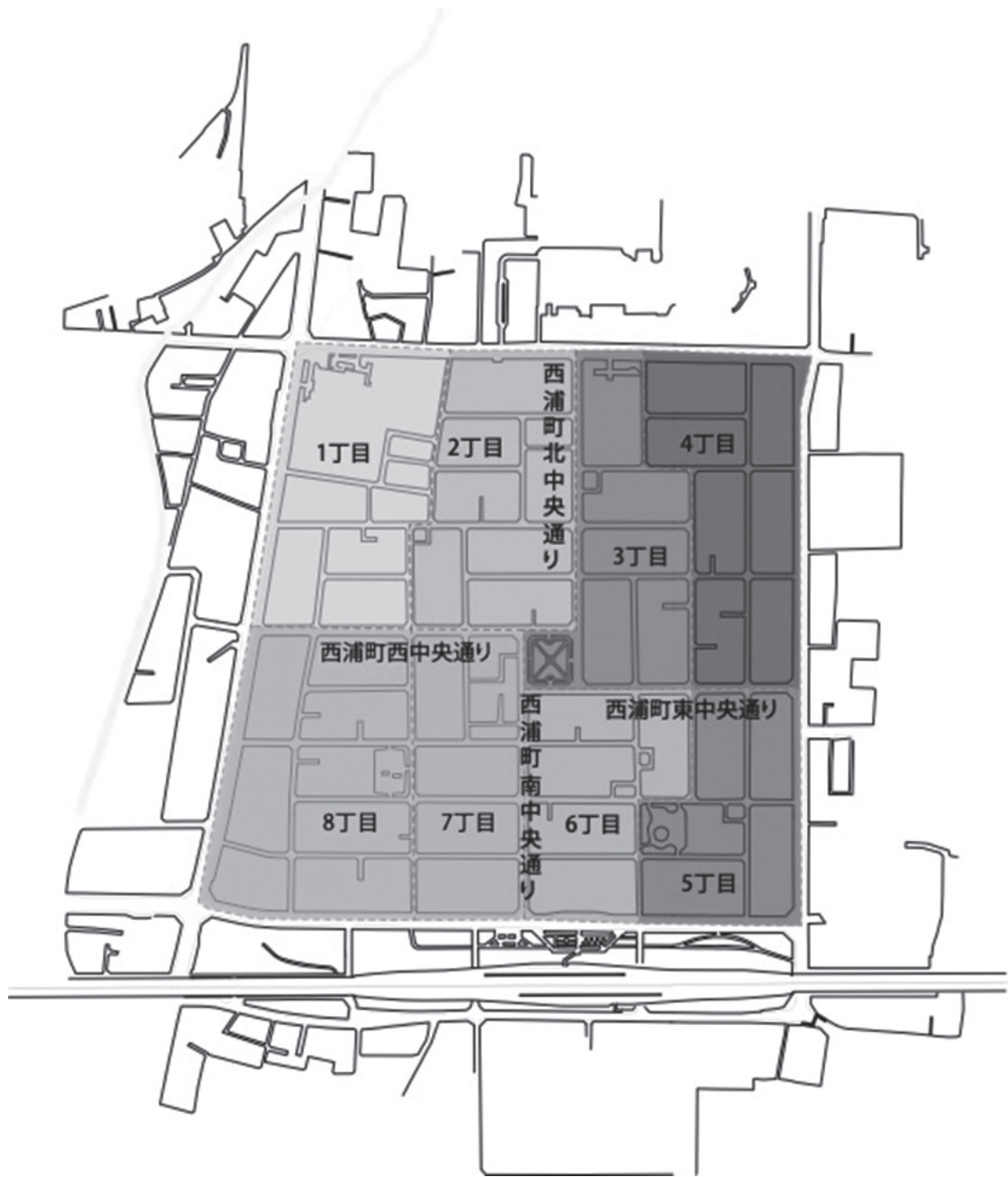


図1 西浦町の町内図

(出所) 国土地理院 基盤地図情報を一部加工して筆者作成

町名の下，農地として払い下げられた（会報「にしうら」，1994）。

農地として払い下げられた翌年の1950年，進駐軍の通信部隊が高いアンテナ柱を多数設置したが，この影響で払い下げられた農地は耕作地に不便な荒地として捨て置かれた（会報「にしうら」，1994）。1955年から1956年にかけて通信部隊は移動し，林立したアンテナは全部撤去された。西浦町略史ではこの2～3年後には一面が水田になったと記載されている。

しかし，1962年に区画整理事業（正式の名称「京都国際文化観光都市建設計画西浦区土地区画整理事業」）が始まり，64年の仮換地指定²⁾を経て，西浦地区は住宅地へと変化していった（会報「にしうら」，1994）。区画整理事業が行われた経緯として西浦町略史では交通の便が良い地域にもかかわらず人が住んでいなかったこと，名神高速道路の通過とバスストップの設置などが挙げられている。

1961年より「京都国際文化観光都市建設計画

表 1 深草西浦町年表

西暦	事柄
1907	第16師団設置
1945	終戦，軍施設は占領
1947	京都練兵場は農地を条件に返還される 練兵場内に市立農場を開設
1949	練兵場を農地に改造し農家に払下げる 練兵場跡を深草西浦町と命名 進駐軍通信部隊が兵器廠跡に駐屯し，練兵場にアンテナ林立 市立農場廃止
1955	通信部隊移転
1958	名神高速道路の西浦町内分工事始る
1961	龍谷大学深草学舎開校 西浦町区画事業始る
1964	名神高速道路開業 西浦勤労者分譲住宅が建つ
1969	住宅公団深草市街地住宅建つ 道路舗装工事始まる（53年完了） 京都市農協伏見支店建つ
1970	西浦町区画整理事業完了 深草西浦町〇丁目となる
1974	深草西浦住宅建つ
1981	西浦町町碑建つ
1987	ロイヤル深草自治会結成
1988	自治連加盟13自治会となる 自治連結成20周年
1991	マンション等に建築対策
1993	スーパーが進出
1994	自治連結成25周年

（出所）内田健二（2001）「『付録』」，にしうらホームページより抜粋

西浦地区土地区画整理事業」として京都市によって市街地造成のための区画整理が行われてきた（会報「にしうら」，1994）。

深草西浦地区で最初に建てられた高層建築は京都市西浦町勤労者分譲住宅であり，昭和42年につくられた。これを契機に民家，アパート，マンション，商店が建ち始め，僅か10年程度で現在に繋がる市街化が進んだ（会報「にしうら」，1994）。

Ⅲ 深草西浦町の人口動向

1 人口の推移

2022年時点での深草西浦町の総人口は6469人（京都市，2022 a）。深草西浦町の面積は約43.2ha（0.432km²）で人口密度は一ヘクタール当たり約149.8人／km²。この人口密度は高く，伏見区のそれが約45人であることと比較すると3倍以上となる。可住地面積に絞ってみても，その数字は約59人（2020年）であり，深草西浦町の人口密度の高さが理解できる。

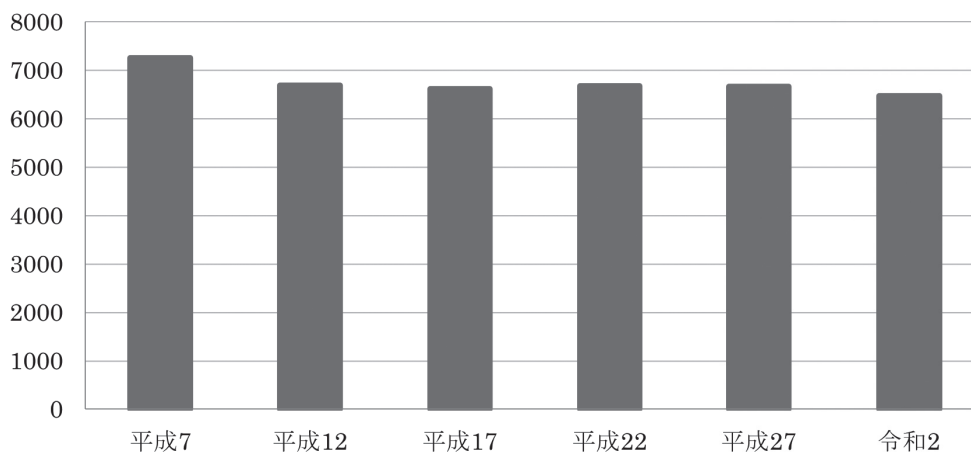


図2 深草西浦町の人口推移

(出所) 筆者作成

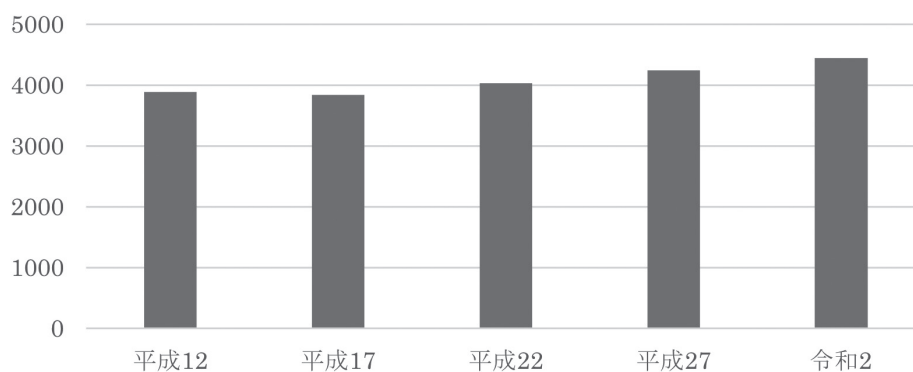


図3 深草西浦町の世帯数推移

(出所) 筆者作成

図2に平成7年（1995年）から、令和2年（2020年）までの深草西浦町の人口推移を示した。これより、この25年間で緩やかにではあるが、深草西浦町の人口は減少傾向にあることがうかがえる。平成7年の人口が7,257人、令和2年が6,469人であり、この25年間で人口は10.1%ほど減少した。

しかし、平成12年（2000年）から令和2年までの世帯数の推移をみると、平成17年以降、増加傾向にあることが伺える。平成17年から令和2年まで深草西浦町の人口は2.3%ほど減少したにもかかわらず、世帯数は逆に16%も増加している。その背景はしっかりとした調査が必要であるが、住民の高齢化比率がこの期間、高くなっていることから考察すると、配偶者と死別した独居老人が増えていることが一つの理由として考えられる。

次に人口推移を町丁目別に見てみる。それをグラフで示したものが図4であり、その増減率

を示したものを表2に示している。これより、2020年の人口規模が多いのは順に深草西浦町2丁目（1,441人）、深草西浦町6丁目（1,034人）、深草西浦町8丁目（976人）、深草西浦町7丁目（783人）、深草西浦町4丁目（661人）、深草西浦町3丁目（629人）、深草西浦町1丁目（558人）、深草西浦町5丁目（387人）となる。

町丁目ごとに面積に差があるが、ほぼ同面積の6丁目と5丁目が最大人口、最小人口であることは興味深い。

また、町丁目別の人口の増減率をみると、ほぼこの町丁目も増減を繰り返しており、どこかの町丁目が人口増をしたり、人口減をしているといった特徴は読み取ることが難しい。増えたところが減る、減ったところが増えるといった振子的な感じで人口が推移している。

ただし、町丁目別の世帯数増減率をみると（図5）、平成22年から深草西浦町2丁目が増加傾向にあることが分かる。

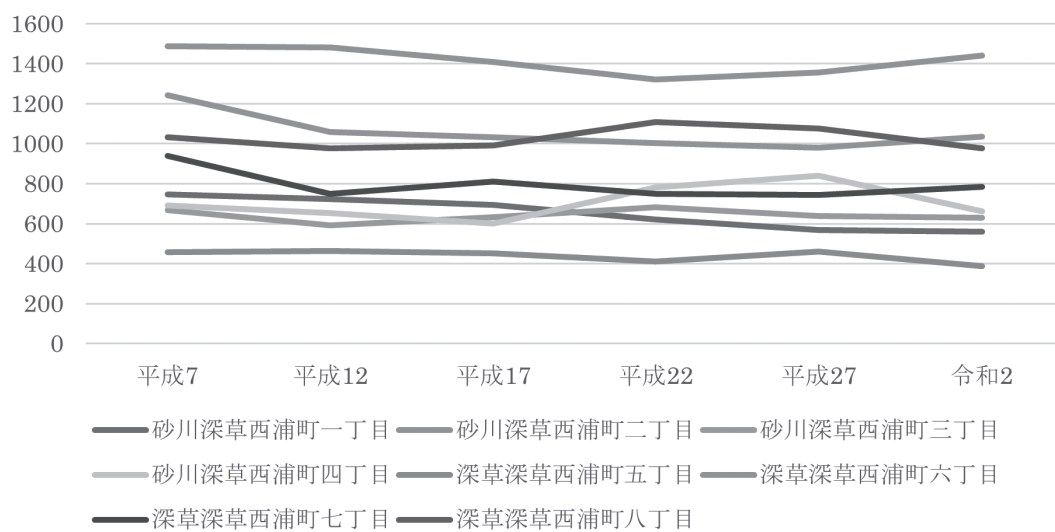


図4 深草西浦町の町目別人口推移

(出所) 筆者作成

表2 深草西浦町の町目別人口増減率

	平成12	平成17	平成22	平成27	令和2
砂川深草西浦町一丁目	0.970	0.959	0.898	0.913	0.982
砂川深草西浦町二丁目	0.998	0.949	0.939	1.026	1.062
砂川深草西浦町三丁目	0.886	1.073	1.079	0.936	0.984
砂川深草西浦町四丁目	0.942	0.922	1.301	1.073	0.788
深草深草西浦町五丁目	1.011	0.978	0.909	1.117	0.843
深草深草西浦町六丁目	0.853	0.974	0.974	0.976	1.055
深草深草西浦町七丁目	0.797	1.082	0.927	0.989	1.055
深草深草西浦町八丁目	0.948	1.012	1.120	0.971	0.906

(出所) 筆者作成

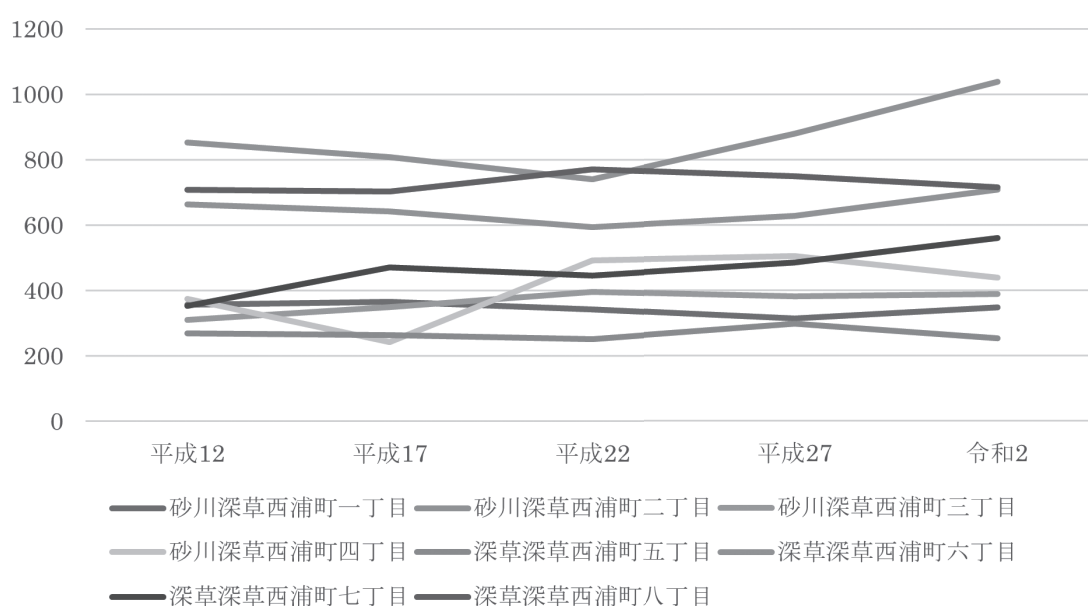


図5 深草西浦町の町目別世帯数増減率

(出所) 筆者作成

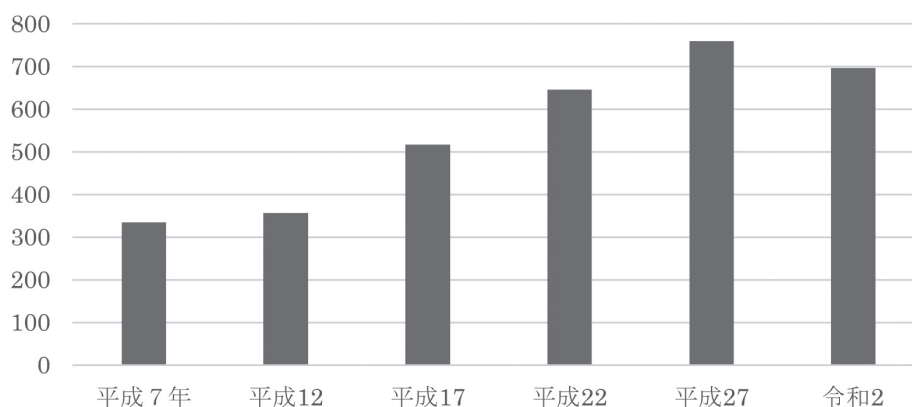


図6 深草西浦町の外国人数の推移

(出所) 筆者作成

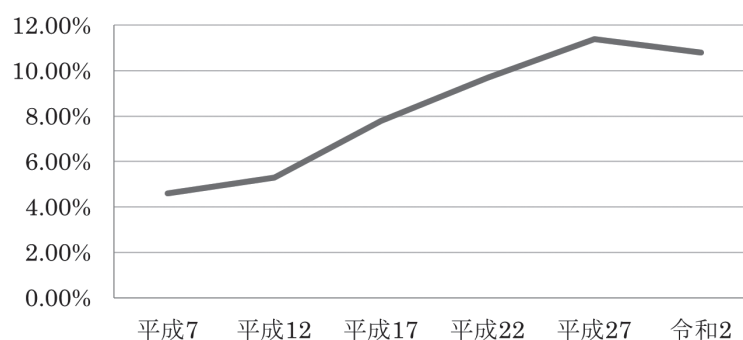


図7 深草西浦町の外国人比率の推移

(出所) 筆者作成

これは二番目に世帯数が多い深草西浦町8丁目と同期間、減少傾向にあることとは極めて対照的である。2丁目ほどではないが、2丁目と同様に平成22年から世帯数が増加傾向にあるのは、深草西浦町6丁目と深草西浦町7丁目である。

2 外国人の動向

深草西浦町の人口に注目した場合、特徴的なのは外国人の多さである。令和2年の国勢調査によると、西浦町に住む外国人の数は697人、外国人比率は10.8%である。全国の外国人比率が2.2%（令和2年）、京都市は2.7%（令和2年）であることと比較すると、深草西浦町の外国人割合が非常に高いことが分かる。また、西浦町の人口が減少傾向にあることに反して、外国人比率はコロナ禍に至るまで増加傾向にあった（図6）。平成7年には334人だった外国人はコロナ前の平成27年には759人と20年で2倍以上に増加する。令和2年こそコロナ禍の影響で減少したが（多くの外国人が西浦地区の予

備校に通っている学生であると考えられるため）、コロナが収まった現在、また増えていることが推察される。

このような外国人の増加は深草西浦町の外国人比率の推移にも大きな影響を与え、平成7年は5%未満であった外国人比率は平成27年には12%近くにまで増加、コロナ禍の影響を受けた令和2年でも依然として10%以上の数字となっている。

このように外国人が多く深草西浦町に住む要因としては、JCL 外国語学院などの語学学校やその関連施設が西浦町や近辺に多く所在することが挙げられる。西浦町にある龍谷大学の留学生寮3棟を調べてみると、ミトラ館は入居者39人、龍谷国際ハウスは99人、龍谷会館は19人と龍谷大学の留学生も西浦町に多く住んでいることが確認できる。

外国人の居住、および外国人比率を町丁目別にみたものを表3に示す。これより絶対数で多いのは深草西浦町2丁目、深草西浦町6丁目、

表3 深草西浦町の町丁目外国人数とその比率

	外国人数	外国人比率
深草西浦町一丁目	66	0.118
深草西浦町二丁目	167	0.116
深草西浦町三丁目	65	0.103
深草西浦町四丁目	58	0.088
深草西浦町五丁目	22	0.057
深草西浦町六丁目	108	0.104
深草西浦町七丁目	105	0.134
深草西浦町八丁目	106	0.109

(出所) 筆者作成

深草西浦町8丁目、深草西浦町7丁目と続くが、その外国人比率に注目すると高いのは深草西浦町7丁目(13.4%)、深草西浦町1丁目(11.8%)、深草西浦町2丁目(11.6%)である。一方で少ないのは5丁目でその比率は5.7%にしか過ぎない。

3 学生の動向

深草西浦町の人口のもう一つの特徴は、大学生が多く居住していることである。深草西浦町には1472人の学生が居住しており、これは深草西浦町全体の16.9%をも占める。そのうちの1099人が大学生等(短大高専生75人+大学生991人+大学院生33人)であり、大学生等が学生の74.6%を占めている(令和2年国勢調査)。この大きな要因は、龍谷大学が近接していることや、学生寮や留学生寮が複数所在することから、龍谷大学の学生や外国人留学生がここに多く住んでいることが挙げられる。

4 人口の年齢別構成

深草西浦町の人口ピラミッドを図8に示す。これより、前節で大学生が多く住むということを示したが、それを裏付けるように20歳から24歳の人口層が男女ともに極めて多いことが分かる。

ただし、20～24歳の人口割合を町丁目別に見ると大きな違いがみられる。これらの人口層が居住する割合が高いのは、順に深草西浦町8丁目(26.6%)、深草西浦町4丁目(22.7%)、深草西浦町3丁目(22.5%)となる。逆に低いの

は深草西浦町1丁目の8.2%である。

このように町丁目別に20～24歳が住むところに大きな差があるという特徴がみられる。これは外国人に比べても大きな違いである。

次に深草西浦町の高齢者に注目する。深草西浦町の65歳以上の割合は令和2年時点で総人口6469人のうち約22%、75歳以上の割合は約11%となる。全国の数字は65歳以上の割合は28.9%、75歳以上の割合は約14.9%なので、深草西浦町は高齢者の割合は全国と比較すると少ないことが分かる。

ただし、その時系列推移をみると、平成27年の65歳以上の割合は20%、75歳以上の割合は約8%であり、西浦町でも徐々にではあるが高齢化率が高くなる傾向がうかがえる。

表4 深草西浦町の町丁目別人口20-24歳の割合

深草西浦町一丁目	0.082
深草西浦町二丁目	0.179
深草西浦町三丁目	0.225
深草西浦町四丁目	0.227
深草西浦町五丁目	0.188
深草西浦町六丁目	0.121
深草西浦町七丁目	0.165
深草西浦町八丁目	0.266

(出所) 筆者作成

5 人口のまとめ

深草西浦町の人口の特徴としては、外国人が多く居住していることが挙げられる。その数は2020年時点で697人(京都市, 2022 a)。外国人

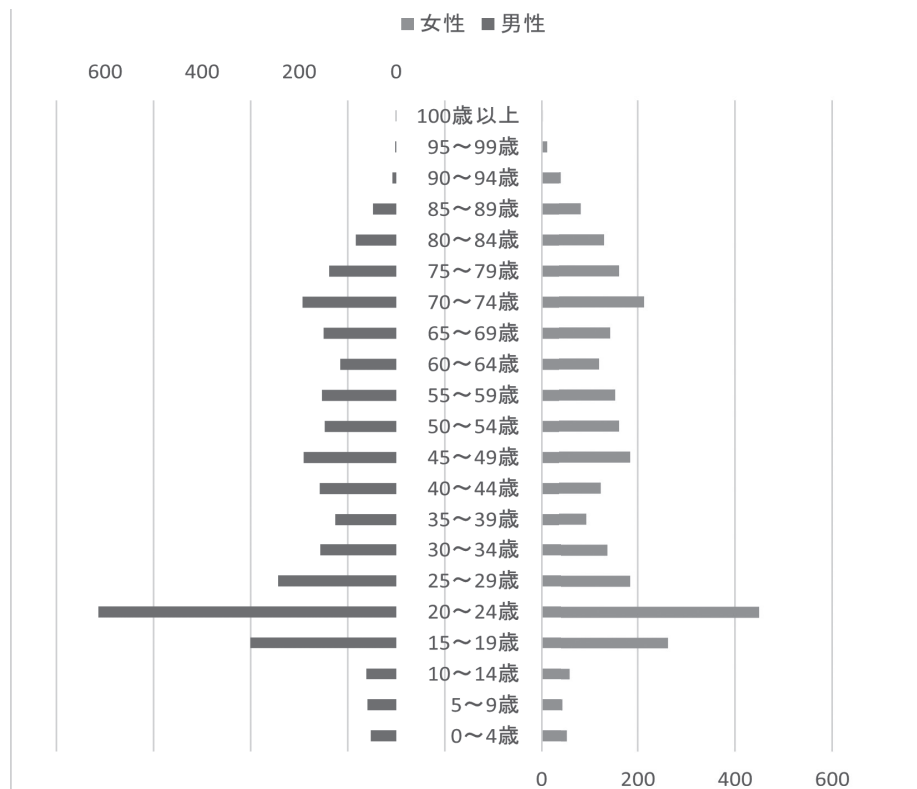


図8 深草西浦町の人口ピラミッド

(出所) 筆者作成

比率は10.8%と、全国の外国人比率が2.2%であることと比較すると非常に多いことがわかる。外国人比率は人口が減少傾向にあることに反して、コロナ禍に至るまでは増加傾向にあった。外国人が多い理由として、龍谷大学やJCL外国語学院などの語学学校やその関連施設が西浦町に所在することが考えられる。

また、大学生が西浦町住民の1.5割を占めていることから学生の多く住む街であることが判明した。5歳階級別の人口のデータの15～19歳と20～24歳が多い。

Ⅳ 深草西浦町の土地利用動向

1 土地利用の概要

深草西浦町は1,154の敷地から構成されている(図9参照)。これらの敷地を駐車場、飲食店に分類した。特に飲食店に関してはさらに細かく15種類(中華料理、居酒屋、カフェ、バー、鉄板焼き、和食、ラーメン、焼肉、うどん、スナック、デザート、割烹、韓国料理、唐揚げ、弁当)分類している。

そのうち駐車場として利用されているのが88箇所である。飲食店は72軒が立地している。敷地、駐車場、店舗数をそれぞれ積み重ね棒グラフで示す。

敷地数に対して最も駐車場として利用される割合が大きいのは5丁目(11.5%)であり、4丁目(10.0%)が次に大きい。いずれも深草西浦町の東側に位置し、師団街道に面している。最も割合が小さいのは6丁目(5.0%)であり、次が3丁目(6.4%)である。いずれも深草西浦町の東西軸で見た場合の中心部に位置しており、師団街道及び深草西浦町西側を通る竹田街道にも面していない。同じくいずれの道路にも面していない2丁目は7.9%であり、1丁目(6.4%)を挟んで4番目に少ない。

敷地数に対しての店舗数を見ると、最も割合が大きいのが、6丁目(15.7%)である。次に大きいのが4丁目(10.0%)であり、その次が5丁目(5.7%)である。また最も小さいのが1丁目(2.1%)であった。南北で比較すると深草西浦町に立地する72軒の内、59.7%に当たる43店舗が深草学区(南側)の4丁に立地し



図9 西浦町の建物図

(出所) 国土地理院 基盤地図情報を一部加工して筆者作成

ている。

深草西浦町の飲食店について事業所密度（事業所数³⁾/面積）を求めると、166.7軒/km²であった。同様に、京都市統計書令和4（2022）年版に記載されている平成28年度の事業所数を基に、京都市のそれを求めた（京都市，2023）。京都市の事業所密度は11.8軒/km²であり、また可住地面積を用いて計算を行うと、44.9軒/km²であった。これらの結果を見ると、西浦町においては飲食店の密度が京都市と比較して非常に高いことが分かる。

2 業種別の立地

深草西浦町に立地している飲食店数を業種別でみると、最も多いのは「居酒屋」の14軒（19%）で、中華料理店の11軒（15%）、カフェの10軒（14%）、バー、鉄板焼きの6軒（8%）と続く。72の飲食店のうち、深草学区（5丁目

～8丁目）に立地しているのが43軒、砂川学区（1丁目～4丁目）に立地しているのが29軒で深草学区の方が多い。ただし、これは業種によって異なり、中華料理店や和食は砂川学区の方に多く立地している。一方で居酒屋、バー、鉄板焼き、焼き肉店などは深草学区の方に多く立地している。

深草西浦町に立地する飲食店を業種別に立地する丁目を積み重ね棒グラフで示す（図11）。中華料理については5丁目が最も多く、全体（11軒）の27.3%が立地しており、1丁目、2丁目、6丁目にはいずれも18.2%ずつ立地している。居酒屋については最も多い6丁目に全体（14軒）の50.0%が立地する他、2丁目、3丁目、4丁目にそれぞれ14.3%ずつ立地している。カフェは最も多いのが4丁目と6丁目でそれぞれ全体（10軒）の30.0%が立地し、1丁目、3丁目、7丁目、8丁目にそれぞれ

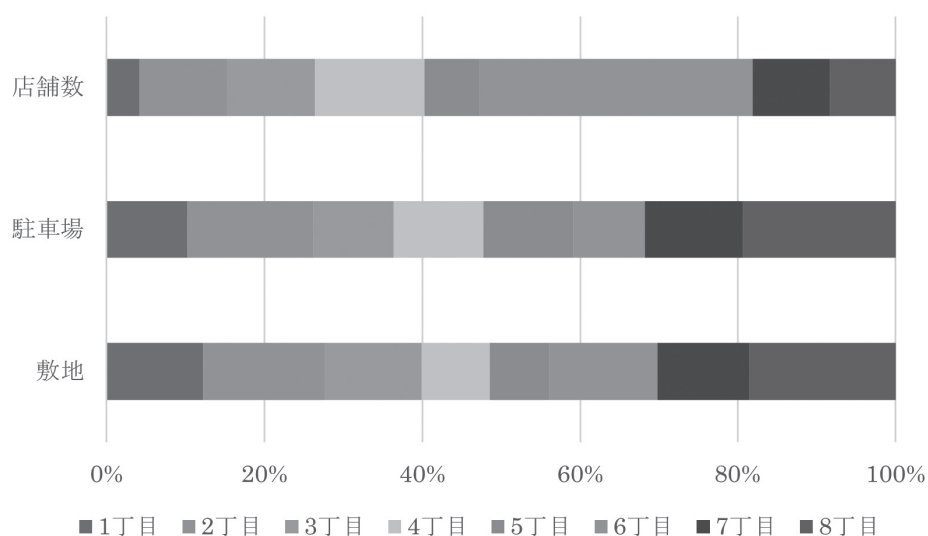


図10 西浦町の町丁目別敷地の割合
(出所) ゼンリン住宅地図の情報などより筆者作成

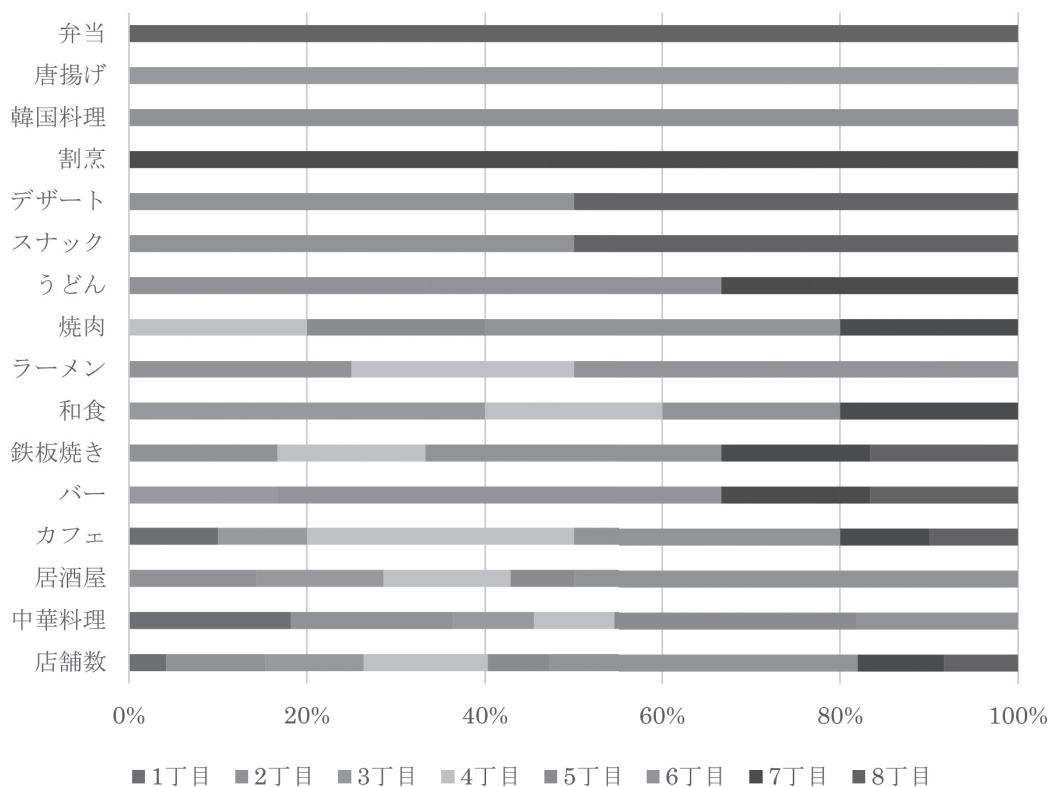


図11 深草西浦町の業種事の町丁目立地割合
(出所) 筆者作成

10.0% ずつ立地している。

南北で業種別に、全体に対して立地する割合について比較を行った。居酒屋では14.3%，バーでは66.7%，鉄板焼きでは33.3%，焼肉では60.0%，スナックについては100.0%，深草学区（南側）に多く立地していることが分かった。その他ではうどん（33.3%），デザート

（100.0%），割烹（100.0%），弁当（100.0%）が深草学区（南側）に多く立地していた。また中華料理屋（9.1%），和食（20.0%），韓国料理（100.0%），唐揚げ（100.0%）については砂川学区（北側）に多く立地している。カフェとラーメンはいずれにも50.0% ずつ立地していた。

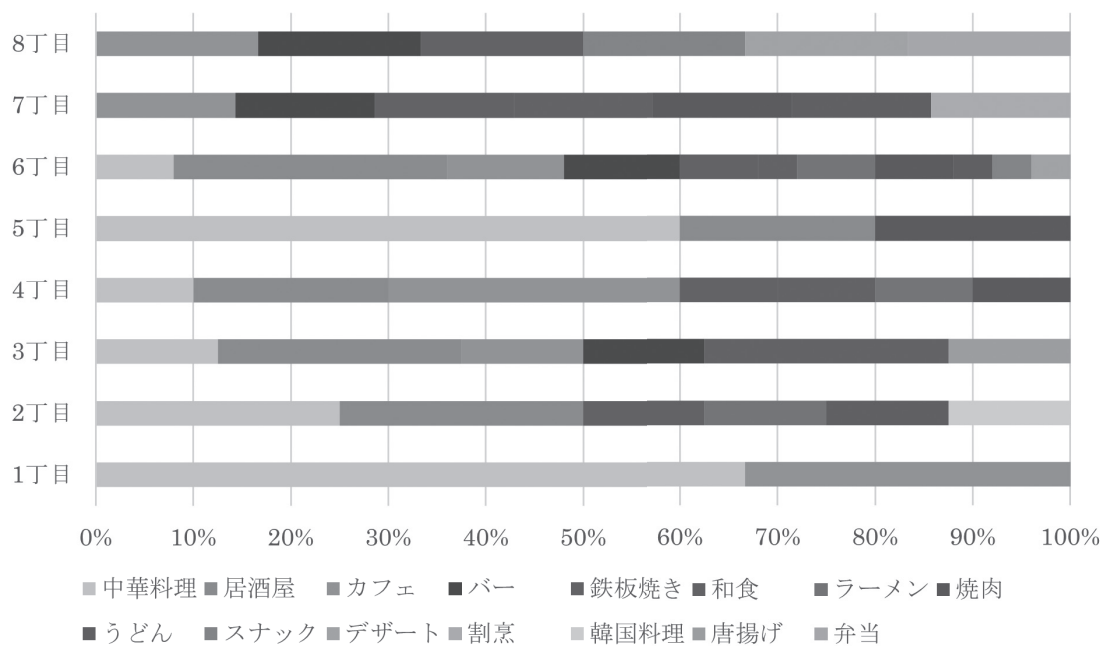


図12 深草西浦町の町丁目毎の業種立地割合

(出所) 筆者作成

3 各丁目別の飲食店の割合

丁目毎にそこに立地する飲食店の割合を積み重ね棒グラフで示す(図12参照)。

1丁目については合計で3店舗が立地している。そのうち中華料理が2軒、カフェが1軒である。2丁目については合計で8店舗が立地している。そのうち中華料理と居酒屋がそれぞれ2軒(25.0%)、鉄板焼き、ラーメン、うどん、韓国料理がそれぞれ1軒(12.5%)である。3丁目については合計で8店舗が立地している。そのうち居酒屋、和食がそれぞれ2軒(25.0%)、中華料理、カフェ、バー、唐揚げがそれぞれ1軒(12.5%)である。4丁目については合計で10店舗が立地している。そのうちカフェが3軒(30.0%)、居酒屋が2軒(20.0%)、中華料理、鉄板焼き、和食、ラーメン、焼肉がそれぞれ1軒(10.0%)である。5丁目については全体で5店舗が立地している。そのうち中華料理が3軒(60.0%)、居酒屋、焼肉がそれぞれ1軒(20.0%)である。6丁目については最も多い25店舗が立地している。そのうち28.0%が居酒屋である。カフェ、バーがそれぞれ12.0%ずつ、中華料理、鉄板焼き、ラーメン、焼肉が8.0%ずつ、和食、うどん、スナック、デザートがそれぞれ4.0%ずつである。7丁目につい

ては全体で7店舗が立地している。カフェ、バー、鉄板焼き、和食、焼肉、うどん、割烹がいずれも1軒(14.3%)ずつである。8丁目については全体で6店舗立地している。カフェ、バー、鉄板焼き、スナック、デザート、弁当がそれぞれ1軒(16.7%)立地している。

4 特化係数

深草西浦町に立地する土地利用の町丁目別の特化係数を示したものが表5である。まず駐車場の立地特性を町丁目別にみていく。深草西浦町に存在する駐車場は、店舗や住居と一体となっているものを除くと88箇所である。最も高いのは5丁目(特化係数=1.51)であり、次に高いのが4丁目(1.31)、続いて7丁目(1.08)である。

また、飲食店について町丁目別の特化係数を見ると、最も高いのが6丁目(2.52)であり、次点で4丁目(1.60)、続いて5丁目(0.92)である。

業種毎に見ていくと、中華料理については最も特化係数が高いのが5丁目(3.62)であり、1丁目(1.49)、6丁目(1.32)がそれに続く。

居酒屋については最も高いのが6丁目(3.63)であり、4丁目(1.65)、3丁目(1.17)

表5 深草西浦町に立地する飲食店の業種別特化係数深草西浦町の町目別人口増減率

	駐車場	店舗数	中華料理	居酒屋	カフェ	バー	鉄板焼き	和食	ラーメン
1丁目	0.84	0.34	1.49	0.00	0.82	0.00	0.00	0.00	0.00
2丁目	1.03	0.72	1.18	0.93	0.00	0.00	1.08	0.00	1.62
3丁目	0.84	0.91	0.74	1.17	0.82	1.36	0.00	3.27	0.00
4丁目	1.31	1.60	1.05	1.65	3.46	0.00	1.92	2.31	2.89
5丁目	1.51	0.92	3.62	0.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6丁目	0.66	2.52	1.32	3.63	2.18	3.63	2.42	1.45	3.63
7丁目	1.08	0.84	0.00	0.00	0.86	1.44	1.44	1.72	0.00
8丁目	1.04	0.45	0.00	0.00	0.54	0.90	0.90	0.00	0.00

	焼肉	うどん	スナック	デザート	割烹	韓国料理	唐揚げ	弁当
1丁目	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2丁目	0.00	2.16	0.00	0.00	0.00	6.48	0.00	0.00
3丁目	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.18	0.00
4丁目	2.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
5丁目	2.65	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6丁目	2.90	2.42	3.63	3.63	0.00	0.00	0.00	0.00
7丁目	1.72	2.87	0.00	0.00	8.61	0.00	0.00	0.00
8丁目	0.00	0.00	2.70	2.70	0.00	0.00	0.00	5.39

(出所) ゼンリン住宅地図の情報などより筆者作成

がそれに続く。カフェについては4丁目(3.46)が最も高く、6丁目(2.18)、7丁目(0.86)がそれに続く。

町丁目別に違いがあることが分かった。全体の店舗数、また居酒屋、中華料理、カフェのいずれについても6丁目が特に高いことが示された。

5 土地利用分析のまとめ

以上のように、本研究では深草西浦町の土地利用について、駐車場、飲食店に着目して調査を行った。駐車場に関して、敷地に対する立地割合では特に師団街道に面する4丁目、5丁目が多く立地している傾向が見られ、逆に東西の大通りに面していない丁目では割合が低い傾向が見られた。また特化係数についても同様に5丁目、4丁目が高い事が分かった。

飲食店については、事業所密度を京都市と比較した結果、深草西浦町には非常に高密度で飲食店が立地することが分かった。全体として深草学区(南側)に立地する割合が高い事が分かった。中でも居酒屋を中心として酒類を提供する様な業種が多く立地しているように思われる。中華料理については砂川学区に多く立地する事が明らかとなった。また特化係数を見ると、

V まとめ

本調査では龍谷大学深草学舎に隣接する深草西浦町に注目して、その地理的特徴、歴史を文献調査から整理をした。また、人口に関しては国勢調査のデータを中心に、全体的な特徴に加え、深草西浦町において極めて特徴的である外国人、学生に注目して整理をした。さらに徹底的なフィールド調査による同地区の土地利用調査を実査で行い、そのデータをいくつかの視点から分析、整理をした。

この調査結果は、今後、西浦町をより深く分析するうえでの基礎データとして位置づけられると考えられる。また、今回の調査では、その要因分析まで至らなかったが、これらに関しては今後の研究課題としたい。さらには住宅の類型化などの調査も今後、進めていき、さらなる

データの収集，整理を行っていくことも今後の研究課題である。

参考文献

- 伊藤淳史（1995）「京都盆地の弥生時代遺跡」『京都大学
校内遺跡調査研究年報』（1995）pp.137-183
- 内田健二（2001）「『付録』」，にしろホームページ，
<http://www.nnpjp.com/rekisi/>，最終確認日
2023/08/31
- 株式会社ゼンリン（2022）「ゼンリン電子住宅地図 デジ
タウン 京都府京都市伏見区」
- 会報「にしろ」編（1994）『西浦町略史』深草西浦自
治会連合会
- 京都市（2018 a）「伏見区の概要：伏見区の合併・編入
の変遷経過」，京都市伏見区ホームページ，[https://
www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/page/0000013286.
html](https://www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/page/0000013286.html)，最終確認日2023年 8 月31日
- 京都市（2018 b）「近代 産業都市への飛躍／明治・大
正・昭和へ」，京都市伏見区ホームページ，[https://
www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/page/0000013327.
html](https://www.city.kyoto.lg.jp/fushimi/page/0000013327.html)，最終確認日2023年 8 月31日
- 京都市（2022 a）「令和 2（2020）年国勢調査」，京都市
統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/2020/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/2020/index.html)，（最終
確認日2022年10月26日）
- 京都市（2022 b）「平成27（2015）年国勢調査」，京都市
統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/2015/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/2015/index.html)，（最終
確認日2022年10月26日）
- 京都市（2022 c）「平成22（2010）年国勢調査」，京都市
統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/2010/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/2010/index.html)，（最終
確認日2022年10月26日）
- 京都市（2022 d）「平成17（2005）年国勢調査」，京都市
統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/2005/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/2005/index.html)，（最
終確認日2022年10月26日）
- 京都市（2022 e）「平成12（2000）年国勢調査」，京都市

統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/2000/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/2000/index.html)，（最終
確認日2022年10月26日）

京都市（2022 f）「平成 7（1995）年国勢調査」，京都市
統計ポータル，[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/
toukei/Population/Census/1995/index.html](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Population/Census/1995/index.html)，（最終
確認日2022年10月26日）

京都市（2023）「京都市統計書」，京都市統計ポータル，
[https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Publish/
YearBook/#t5](https://www2.city.kyoto.lg.jp/sogo/toukei/Publish/YearBook/#t5) 最終確認日2023年 8 月31日

国土地理院「基盤地図情報ダウンロードサービス」，
<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>，最終確
認日2023年 8 月31日

龍谷大学政策学部 / LORC「西浦通信 1 号」，2023年 1
月

龍谷大学政策学部 / LORC「西浦通信 2 号」，2023年 2
月

龍谷大学政策学部 / LORC「西浦通信 3 号」，2023年 3
月

龍谷大学政策学部 / LORC「西浦通信 4 号」，2023年 4
月

【謝辞】

本調査の元となったデータは，龍谷大学政策学部服部主
郎ゼミナールの学生達の協力に負っている。特に，渡邊氏，
長崎氏，松崎氏，中岡氏，藪田氏，胡氏にはここで彼ら・
彼女らの協力に対して感謝の意を伝えたい。

注

- 1) 進駐軍：他国に進軍し，そこに駐屯している軍隊の
こと。
- 2) 道路等の公共施設の工事を行い，土地の区画を変更
するため，従来の宅地に代えて，将来新たに使用する
ことのできる土地を指定すること
- 3) この際，事業所数として「宿泊業，飲食サービ
ス業」の内，飲食店と持ち帰り・配達飲食サービス業の
事業所数を合計したものをを用いた。